

科目名：リーダーシップ論	高度実践看護師コンピテンシー
単位数：2 単位 開講時期：1 年次	A- 2 B-1, 3, 4 C- 1, 2, 3, 4 D-1, 2, 3 E- 4 F-1, 2, 3, 4

科目概要

地域・社会の動きを捉え、多様な医療ニーズを把握し、対応できる医療・ケアシステム構築の提案・推進・変革に必要な知識・技術を修得する。また組織の部門におけるケアの質保証・改善、アウトカム向上のためにリーダーシップを発揮し、多職種チームの調整、アウトカムマネジメント、人的資源管理を行うために必要な知識・技術を身につける。

達成目標：

- 1) 専門分野のリーダーとして、組織や部門におけるケアの質保証・改善、アウトカム向上のためにチームの調整に取り組み、アウトカムマネジメントを行う能力を身に付ける。(B-1, B-4, B-5)
- 2) 組織や部門に変革をもたらすための改善課題の明確化、改善の程度を評価する指標、データ測定・分析、改善策の立案・実行と評価等の一連のプロセスにチームとして取り組む組織的アプローチの方法を検討でき、リーダーシップを発揮できる。(A-2, B-4, C-2, C-3, C-4)
- 3) 組織や部門において効果的な看護実践を導入し、組織全体の看護・ケアの質向上を図るために関係する人々の教育支援においてリーダーシップを発揮できる。(B-3, B-5, C-4, C-1, D-3, D-4)
- 4) 地域・社会の動きをとらえ、多様な医療ニーズを把握し、対応できる医療・ケアシステム構築の提案や推進をし、医療・ケアシステムを変革するための方策について検討できる。(B-5, C-1, F-1, F-2, F-3, F-4)
- 5)

授業計画・内容 15 回 (1 回 90 分)

回数	授業内容	授業形式
1	高度実践看護師に求められるリーダーシップと調整能力 マネジメントとリーダーシップの特徴、役割、手段	講義
2	リーダーシップを発揮するための看護管理の知識 看護管理の構成要素 (人的・物的・財的資源・情報・ナレッジ・時間)	講義
3	日本の保健医療福祉に関する動向と課題 医療政策・関連法規 看護制度とマンパワー	講義
4	日本の保健医療福祉制度とヘルスケアシステム 医療保険制度 (診療報酬)、介護保険制度 (介護報酬) 重症度医療看護必要度 診療報酬の評価につながる看護実践	講義
5	組織の成り立ちと機能 (1) 組織理念 組織構造 組織分析 (SWOT 分析等) 経営戦略 (BSC 等) 看護組織の構造 看護における目標管理 (PDCA サイクル)	講義

6	組織の成り立ちと機能 (2) 社会における所属する自施設の役割や組織戦略の理解 自施設の現状分析 SWOT 分析を用いて行う	演習
7	看護サービスの質管理 (1) 看護の質マネジメント 看護の質保証 医療安全管理・リスクマネジメント・医療事故分析法 (RCA 分析, ImSAFER 分析 等) 危機管理 (災害・不測の事態) ・メディエーション	講義
8	看護サービスの質管理 (2) 質の高い看護サービスを提供するための方策 高度実践看護師の役割と機能 医療・看護サービスの満足度、質評価 (Quality Indicator 等)・改善 職務満足	講義
9	看護サービスの質管理 (3) 各組織における高度実践看護師の役割期待と成果 自施設の看護の質の向上に関する取り組み事例の検討	演習
10	組織変革 組織変革に必要な変革理論 チェンジ・エージェントに求められる調整能力 コンフリクトマネジメント 看護管理者と高度実践看護師との協働	講義
11	人的資源管理 看護師の雇用と適正人員配置、法的根拠 人事評価システムと看護職員の目標管理	講義
12	人材育成 キャリアマネジメント キャリア発達 組織のキャリア開発 継続教育 ラダー 動機付け、スペシャリストの育成 組織文化の理解	講義
13	多職種による協働 (1) 専門職連携教育・実践 多職種チームにおける高度実践看護師の調整役割	講義
14	多職種による協働 (2) 多職種チームとの連携協働に必要な調整に関する事例の分析と自己の課題の明確化	演習
15	効果的なケアシステム提供の構築にむけて看護の視座から研究結果や蓄積したデータを自己のテーマに沿って取りまとめプレゼンテーション	演習

6. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書

科目名：看護研究	高度実践看護師コンピテンシー A-3
単位数：2 単位 開講時期：1 年次	E-1, 2, 3, 4 F-1, 2

科目概要

実践の場において実際に看護研究を実施できるよう、研究活動に必要な研究方法に関する基礎知識を学修し、看護の現場の変革を図るための方略を検討することができる基本的能力を修得する。

達成目標：

- 1) 看護の現場で活用するエビデンスを探すことができる (A-3) (E-1)
- 2) 探索したエビデンスをクリティークすることができる (E-1)
- 3) 具体的な研究の進め方について説明できる (E-2)
- 4) 看護の現場の変革のために、エビデンスを活用することを検討することができる (E-3、E-4) (F-1、F-2)

授業計画・内容 15 回 (1 回 90 分)

回数	授業内容	授業形式
1	看護研究とは ・看護実践における研究の重要性について	講義
2	関心のあるテーマの明確化 ・看護実践の場面における問題意識の明確化 ・自身の関心のあるテーマの明確化	講義・演習
3	文献検索① ・エビデンスの検索エンジンの活用方法 (医学中央雑誌、PubMed、Cochrane など) ・自身の関心のあるテーマに関するキーワードの明確化	講義・演習
4	文献検索② ・明確にしたキーワードを用いて文献検索の実施	演習
5	量的研究① ・量的研究デザインを学ぶ (横断・縦断調査、コホート研究、ケースコントロール研究など)	講義・演習
6	量的研究② ・量的研究のデータ収集方法を学ぶ (標本抽出、サンプルサイズの考え方、質問紙法など) ・量的研究の解析方法を学ぶ (記述統計、相関、検定など)	講義・演習
7	量的研究③ ・自身の関心のあるテーマに関するキーワードを用いて検索した量的研究の文献をクリティークする	講義・演習
8	量的研究④ ・量的研究文献のクリティーク内容に基づいて、参加者でディスカッションを行う	演習

9	質的研究① ・質的研究デザインを学ぶ (事例研究、質的記述的研究、質的内容分析、エスノグラフィーなど)	講義・演習
10	質的研究② ・質的研究のデータ収集方法を学ぶ(観察法、インタビュー法など) ・質的研究の分析方法を学ぶ(KJ法、カテゴリーの生成など)	講義・演習
11	質的研究③ ・自身の関心のあるテーマに関するキーワードを用いて検索した質的研究の文献をクリティークする	講義・演習
12	質的研究④ ・質的研究文献のクリティーク内容に基づいて、参加者でディスカッションを行う	演習
13	質的研究の実際 ・ミニインタビューを実施し、データ収集(録音、逐語録作成)、データ分析(カテゴリー化など)を通して、質的研究の実際を学ぶ	演習
14	研究計画書の作成 ・自身の関心のあるテーマについて研究計画書を作成し、実施可能性や倫理的配慮についてディスカッションを行う	講義・演習
15	研究成果のまとめ方/全体の構成について ・論文にまとめる意義 ・抄録作成方法 ・投稿方法	講義・演習

6.. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書

参考書(標準的に用いられているものを紹介)

- ・南裕子&野嶋佐由美(2017)看護における研究第2版 日本看護協会出版会
- ・諏訪敏幸(2013)看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説 近畿病院図書協議会
- ・山川みやえ&牧本清子編(2020)よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版 日本看護協会出版会

科目名： コンサルテーション論	高度実践看護師コンピテンシー A-4 C-5 E-	B-1, 2 D-1, 4 F-1, 2, 3
単位数：2 単位 開講時期：1 年次		

科目概要

コンサルテーションの基本的概念、類型、コンサルタントの役割、プロセスおよび関係構築技法等の知識と技術を理解し、看護実践の場においてケア提供者等（コンサルティ）からの相談を受け、コンサルティの抱える課題について自ら解決できるように、ロールプレイやリフレクションを通して学修する。さらに住民（集団）や専門職チーム、組織等を対象とし、組織的課題や倫理的課題を孕む実践の場の状況、多職種チームの課題へのコンサルテーションの考え方や方法を学修する。これらを通して高度実践看護師の役割を発展させていくための基本的能力を修得する。

達成目標：

- 1) コンサルテーションの基本的概念、類型/タイプ、プロセスを説明することができる。(C-5)
- 2) 看護実践の場におけるコンサルテーションの目的と期待する成果、コンサルタントの役割・機能および態度を説明することができる。(B-1, B-2)
- 3) コンサルティとの関係構築方法を理解し、具体的なアプローチを計画することができる。(D-1, D-2)
- 4) ロールプレイや実践事例を通してコンサルテーションのプロセスを評価・リフレクションし、自己の課題を検討できる。(A-4)
- 5) 組織的課題や倫理的課題を孕む実践の場の状況あるいは組織に対するアプローチや、多職種との協働関係の構築にむけた方策を検討できる。(F-1, F-2, F-3)

授業計画・内容 15 回（1 回 90 分）

回数	授業内容	授業形式
1	コンサルテーション総論 コンサルテーションの基本的概念、類型、コンサルタントの役割・責任、コンサルティの役割・責任、基本的なコンサルテーションの展開、フェーズについて学ぶ。	講義
2	高度実践看護におけるコンサルテーション 高度実践看護師が行うコンサルテーション機能、意義、目的、成果、およびリファール（紹介）や共同マネジメントとの違いについて、およびコンサルテーションに影響を与える要因（コンサルティの特性、ケースの特性、状況、組織）について学ぶ。	講義
3	援助関係構築の各種技法、理論の理解 傾聴等の援助関係構築の技法、および相談支援に関連する各種理論等（スーパービジョン、コーチング、カウンセリング、教育）について比較し、それぞれの特性を学ぶ。	講義
4	コンサルテーションの具体的な進め方と記録、評価 コンサルテーションの手順、記録等の具体的な方法、評価、および得られた成果の共有方法や配慮すべき点について学ぶ。	講義

5	クライアント中心のケースコンサルテーション クライアント中心のケースコンサルテーションのプロセス、技術、コンサルタントの役割について事例等を用いて理解を深める。	講義・演習
6	コンサルティ中心のコンサルテーション コンサルティ中心のコンサルテーションを提供するために用いる技術と評価、プロセス、技術、コンサルタントの役割について事例を用いて理解を深める。	講義・演習
7	プログラム中心のコンサルテーション 組織が抱える課題に対してその改善のための事業を推進するにあたってのコンサルテーションについて事例を用いて理解を深める。	講義・演習
8	多職種連携、チーム医療におけるコンサルテーション 多職種連携、チーム医療におけるコンサルテーションについて事例を用いて理解を深める。	講義・演習
9	組織へのコンサルテーション 組織のプロセスに着目し、組織の自発的改善力を活かすような働きかけについて、事例を用いて理解を深める。	講義・演習
10	各専門領域におけるコンサルテーションの実際 1 受講生の専門領域における事例発表とその後の討議を通して、専門領域の違いによる特性を学ぶ。	演習
11	各専門領域におけるコンサルテーションの実際 2 受講生の専門領域における事例発表とその後の討議を通して、専門領域の違いによる特性を学ぶ。	演習
12	ロールプレイの実施 コンサルテーション場面を設定し、受講者が役割を変えながらコンサルタント役を経験する。	演習
13	ロールプレイの振り返り ロールプレイを振り返り、用いられた技術を抽出し、その効果や他の技術の可能性等を討議する。	演習
14	看護の発展、質の向上にむけたコンサルテーションと体制づくり コンサルテーションの成果を実践に還元する方法や、体制を組織に位置づけるための具体的な取り組みについて討議する。	演習
15	総合討論 各自の学び、および今後の課題を発表、共有する。	演習

6.. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書

参考書（標準的に用いられているものの紹介）

- ・ Tracy M.F., O'Grady E.T. (2018): Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach (6th Ed), 中村美鈴・江川幸二監訳 (2021), 高度実践看護—統合的アプローチ

チ第2版, へるす出版

- ・ 山本和郎 (1997) : コミュニティー心理学 地域臨床の理論と実践 東京大学出版会
- ・ 野末聖香編著 (2004) : リエゾン精神看護, 医歯薬出版株式会社
- ・ エドガー・H. シャイン (1988) / 稲葉元吉翻訳 (2002) : プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと-, 白桃書房

科目名：看護倫理	高度実践看護師コンピテンシー A- 2, 3, 4 B-2
単位数：2 単位 開講時期：1 年次	C- 2 D- D- F-

科目概要

人々の尊厳を守り、権利を擁護するために適切な倫理的判断と判断に基づいた倫理調整の基盤となる理論や知識を学び、複雑で解決困難なケースの倫理的課題を高度実践看護の視点から分析し、考察する。さらに臨床現場で遭遇する倫理的問題・葛藤について関係者間の調整を行い、解決策の検討に向けたアプローチ法を修得する。

達成目標：

生命倫理、看護倫理の歴史的変遷や概念、理論を説明できる。

- 1) 看護実践における倫理的課題を述べることができる。(A-2)
- 2) 高度実践看護師が関わる具体的な事象について倫理的課題を分析できる。(A-3, B-2, C-2)
- 3) 倫理調整のプロセスについてモデルや理論を用いて説明できる。(A-2, B-2)
- 4) 看護のあらゆる場面において高度実践看護師として倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動を示すことができる。(A-2, 3, 4, B-2, C-2)

授業計画・内容 15 回 (1 回 90 分)

回数	授業内容	授業形式
1	生命倫理、看護倫理の歴史的変遷・概念・理論 歴史的変遷を概観し、原則的概念や理論を学習する。	講義
2	看護における倫理的課題 看護職が直面する倫理的課題を学習する。	講義
3	看護実践における倫理的課題に対するアプローチ 倫理的アプローチや専門職や専門領域の倫理綱領やガイドラインを学習する。	講義
4	倫理的意思決定プロセス 倫理的意思決定のプロセスやその評価、倫理的実践への障壁への識別や対応について学習する。	講義
5	意思決定モデルⅠ 意思決定モデルを用いた事象へのアプローチ法を理解する。 例：看護倫理のための意思決定 10 のステップ (Thompson & Thompson)、臨床倫理 4 分割法 (Jonsen)	講義・演習
6	意思決定モデルⅡ 意思決定モデルを用いた事象へのアプローチ法を理解する。 例：倫理的分析と意思決定のための RESPECT モデル (Yeo, M, & Moorhouse)、看護実践における倫理的分析と意思決定のためのモデル (Fry ST & Johnstone MJ)	講義・演習

7	看護実践における倫理的ジレンマ：事例 1 看護実践における倫理的課題を挙げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割を検討する。	演習
8	看護実践における倫理的ジレンマ：事例 2 看護実践における倫理的課題を挙げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割を検討する。	演習
9	看護実践における倫理的ジレンマ：事例 3 看護実践における倫理的課題を挙げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割を検討する。	演習
10	看護実践における倫理的ジレンマ：事例 4 看護実践における倫理的課題を挙げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割を検討する。	演習
11	看護実践における倫理的ジレンマ：事例 5 看護実践における倫理的課題を挙げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割を検討する。	演習
12	組織・社会における倫理的課題 看護職にかかわる組織的・社会的な課題について学習し、高度実践看護師としての役割について検討する。	講義
13	研究・教育における倫理的課題 研究や教育にかかわる倫理的課題について学習し、高度実践看護師としての役割を検討する。	講義
14	高度実践看護師と倫理調整 I 高度実践看護師による倫理調整の実際を学習する。	講義
15	高度実践看護師と倫理調整 II 倫理調整における組織や自己の課題、高度実践看護師としての役割を検討する。	演習

6.. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書

科目名：フィジカルアセスメント	高度実践看護師コンピテンシー
単位数：2 単位 開講時期：1 年次	A- 1.3 B-4 C- 5 D-1 E- 1 F-

科目概要

複雑な健康問題をもつ対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。また、問診・打診・視診・触診・検査機器や生体データから得られる情報を統合し、緊急度・重症度を判断して看護実践に反映していく能力を養う。

達成目標：

- 1) 対象の身体状況について系統的な全身の診査方法を理解し活用できる (A-1, A-3,)
- 2) 臨床判断を行うために必要な思考過程を理解し活用できる (A-1, A-3, B-4, C-5, E-1)
- 3) 現在の症状、身体所見の正常・異常について既往歴を含めて包括的に解釈し臨床判断ができる (A-1, A-3, B-4, C-5, D-1)
- 4) 緊急度・重症度の高い身体状況を識別できる (A-1, A-3)

授業計画・内容 15 回 (1 回 90 分)

回数	授業内容	授業形式
1	フィジカルアセスメント概論 フィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）	講義
2	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
3	循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
4	消化器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
5	中枢神経系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
6	腎・泌尿器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
7	内分泌・代謝系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
8	筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント	
9	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ①胸痛	
10	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ②腹痛	
11	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ③呼吸困難	
12	症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断 ④意識障害・頭痛	
13	事例を用いた症例検討	演習
14	事例を用いた症例検討	
15	事例を用いた症例検討	

6. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書

科目名：病態生理学	高度実践看護師コンピテンシー
単位数：2 単位 開講時期：1 年次	A-1、3 B- C- D- E-4 F-

科目概要

様々な症状を呈する病態について理解を深め、症状や徴候、検査データからエビデンスに基づいて、対象者の全身の病態生理学的変化を解釈し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について習得する。

達成目標：

- 1) 機能障害について学び、主要な疾患の症状と徴候、検査データについて理解し、病態生理学的変化を説明できる。(A-1)
- 2) 主要な疾患の病態生理学的視点から形態変化と機能変化を理解し、それらに基づいた看護ケアの立案ができる。(A-3, E4)

授業計画・内容 15 回 (1 回 90 分)

回数	授業内容	授業形式
1	科目オリエンテーション 科目概要・到達目標・授業スケジュール・評価方法などの説明を受け授業の概要と参加方法を理解する。 臨床看護判断と病態生理 臨床看護判断をする上で病態生理学の知識がどのように活用されるのか、また、その知識が看護ケアにどう生かされるのかについて学習し、病態生理学を学ぶ意義を考える。	講義
2	呼吸機能障害とその病態 拘束性肺疾患、閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、呼吸器腫瘍等	講義
3	循環器機能障害とその病態 虚血性心疾患、心臓弁膜症、心不全、心奇形等	講義
4	消化機能障害とその病態 消化器腫瘍、吸収障害等	講義
5	内分泌・代謝機能障害とその病態 甲状腺疾患、糖尿病等	講義
6	排泄機能障害とその病態 慢性・急性の腎障害、水分・電解質異常等	講義
7	生殖機能障害とその病態 婦人科疾患、前立腺疾患、生殖器系のがん等	講義
8	認知・感覚機能障害とその病態 高次脳機能障害、感覚障害等	講義
9	運動器機能障害とその病態 筋肉・骨格系の障害等	講義

10	造血機能障害とその病態 貧血、白血病、悪性リンパ腫等	講義
11	免疫機能障害とその病態 感染症、アレルギー疾患、免疫不全等	講義
12	機能障害とその病態 *各大学院の必要性によるトピックス	講義
13	事例検討 1 各専門領域に関する事例の病態生理学的側面からの看護判断とケア計画	演習
14	事例検討 2 各専門領域に関する事例の病態生理学的側面からの看護判断とケア計画	演習
15	事例検討 3 各専門領域に関する事例の病態生理学的側面からの看護判断とケア計画 まとめ	演習

6.. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書

科目名：臨床薬理学	高度実践看護師コンピテンシー
単位数：2 単位 開講時期：1 年次	A-1. 3 B- 2 C- 3 D- 1 E- 1 F- 1

科目概要

臨床薬理学の基本的知識を学び、薬物療法を受ける対象者の特徴を捉え、使用されている薬剤についてその効用と有害事象、投与後のモニタリング評価ができる能力を養う。主に緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理のための薬剤を中心に薬物療法を受ける患者の生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力向上を図るために必要な知識と看護技術を学び、看護上の課題を抽出し看護支援について考える力を養う。また、薬物療法の現代的課題と看護について学び変革課題を考察する。

達成目標：

- 1) 病態生理に基づく薬物治療による生体反応および予測される副作用について説明できる。(A-1)
- 2) 臨床でよく用いられる薬剤の薬物動態を理解し、その投与方法や投与後のモニタリングについて説明できる。(A-1)
- 3) 緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理のための薬剤使用の判断と必要な看護について説明できる。(A-1)
- 4) 薬物療法を受ける患者の看護問題（課題）を抽出し、生活調整、回復力促進、服薬管理能力の向上のために必要な看護看護支援を計画し、評価について考察できる。(A-3、B-2、C-3)
- 5) 変化する医療に対応する倫理的側面を踏まえ、薬剤治療におけるチームの課題と高度実践看護の役割と課題を考察する。(D-1、E-1、F-1)

授業計画・内容 15 回（1 回 90 分）

回数	授業内容	授業形式
1	臨床薬理学の基礎 医薬品の分類と薬品管理、処方箋、添付文書の読み方 医薬品に関する法律、医療事故防止のための留意点	講義
2	薬物動態と作用・副作用 病態を踏まえた薬剤の作用機序と体内動態、与薬（投与）方法、効用の評価	講義
3	対象者の特性に応じた薬物療法 対象（妊婦・小児・高齢者、複数の病態をもつ患者）の生理学的な特徴を踏まえた有害事象予防のための留意点	講義
4	神経薬理と症状緩和のための治療薬管理と支援 自律神経系と末梢神経系の薬理・治療薬管理と支援	講義
5	神経薬理と精神安定のための治療薬管理と支援 中枢神経系の薬理・治療薬管理と支援	講義
6	心血管系薬理と循環安定のための治療薬管理と支援	講義
7	内分泌・消化系薬理と体内環境の維持のための治療薬管理と支援	講義
8	化学療法の原理と感染阻害のための治療薬管理と支援	講義

9	抗がん剤の原理と腫瘍増殖阻害のための治療薬管理と支援	講義
10	炎症・免疫薬理と免疫抑制・調節のための治療薬管理と支援	講義
11	炎症に関わる統合薬理と症状緩和のための治療薬管理と支援	講義
12	緊急応急処置に関わる統合薬理と恒常性維持のための治療薬管理と支援	講義
13	薬物療法の現代的課題と看護 地域の特性及び専門性の課題と看護について (安全管理体制、診療報酬とケア、最新情報の入手、創薬、ドラッグデリバリー、遠隔ケア、災害時の薬剤入手情報等)	講義 演習
14	薬物療法を受ける患者の生活調整、回復力促進、服薬管理能力の向上のための看護支援 1 薬物療法を受ける患者の看護問題（課題）と看護支援の検討	演習
15	薬物療法を受ける患者の生活調整、回復力促進、服薬管理能力の向上のための看護支援 2 薬物療法を受ける患者と家族への看護計画立案、評価方法の検討	演習

6.. 評価方法

各大学

7. 教科書・参考書